

上海食品商談会開催と最近の中国食品事情

洲澤 輝

<上海食品商談会の開催>

昨年(2017年)の11月12日に上海市内の花園飯店(ガーデンホテル)で開催した商談会には、16社の広島県企業が出展し、水産物、お菓子、調味料、日本酒など豊富な種類の商品が出展されました。いずれも中国の来場バイヤーの気を引き付ける商品ばかりでしたが、特に今回は広島の地酒メーカー6社が出展し、上海で飲食店を営んでいる経営者らと真剣に商談をしている姿が多く見受けられました。来場バイヤー数は58社で、上海以外に大連、深圳、山東省、南京など中国各地からも参加して頂きました。商談件数は163件、当日の成約見込額は3,500万円に及びました。

今回の商談会では、出展企業とバイヤーとの間でWeChatの交換をしている光景が非常に多くみられました。中国ではWeChatはもはや必需品です。中国進出を検討されている企業様は、まずはWeChatのアプリをダウンロードされてみてはいかがでしょうか。

毎年開催している上海食品商談会は広島県内企業の皆様の中国進出に向け、WeChatのPRや連絡機能も活用しながら現地バイヤーとの商談機会を提供しています。ご関心ありましたら気軽にご連絡ください。



(商談会場の花園飯店ジャスミンルーム会場
中央には出展商品サンプルを展示)

<中国の食品事情と今後の見通し>

上海では日本食の人気の根強いと感じています。ここ最近、日本人が比較的多く住むエリアとして有名な“中山公園”のショッピングセンターの地下に日本料理店が立ち並ぶ“横丁”がオープンしました。

横丁には居酒屋を始め、ラーメン屋、沖縄料理店、焼肉屋、更にはお好み焼き屋など様々な日本料理店が入店しています。店内には日本の音楽が流れ、貼られているポスターも日本のモノです。店内は日本風のデザインを施しており、まるで日本に居るかのような気分になってきます。



(中山公園エリアの“横丁”、多数の日本料理店が並ぶ)

中国での日本食の人気は未だに顕著で、中国全土を見ると2017年時点では日本食レストランが合計40,800店舗存在しており、その内上海市だけを見ると3,320店舗。その他の地区に関しては広東省が6,554店舗、浙江省が3,841店舗、北京市が1,655店舗と中国各地で日本食が人気であることが分かります。

また、このところの政府間の政策による後押しもあります。昨年5月には中国向けに日本産米を輸出できる日本の“精米工場”及び“燻蒸倉庫”が新たに追加されました。(本誌6月号参照) この輸出規制の改善によって、より多くの日本産米を中国へ輸出できるようになりました。

さらに昨年11月には新潟県産米の輸入停止が約7年ぶりに解除され、新潟県産のお米が中国で販売できることになりました。中国は日本の約20倍の米を消費している巨大市場です。中国では日本のお米は高価格で販売されていますが、日本食に関心のある富裕層に好まれているため、この政策が富裕層に与える影響は大きいはずで

す。根強い日本食の人気に加え、新たな政策の後押しにより、日本産米を含む日本食の普及が今後もさらに期待できると思います。



(上海で日本産米を販売する店舗
地方からの中国国内旅行者も多く購入するとの事)